

こちら危機管理課お天気相談所

～気象防災アドバイザーによるすぐに役立つ気象情報を月1で配信～

※気象防災アドバイザーとは「地元の気象に精通し、地方公共団体の防災対応を支援することができる人材」として国土交通大臣が委嘱した方です。



Yoshiaki Yano

車は水陸両用ではありません！

去る8月13日、千葉県北西部を中心に線状降水帯が発生し、猛烈な豪雨が各市を襲いました。千葉市では1時間に115ミリという、恐怖を感じる猛烈な雨が降り、半日で8月の平均雨量の3倍に達しました。住宅の浸水、道路冠水、河川の急な増水が相次ぎ、13名の尊い命が失われています。レベル5大雨特別警報の発表や緊急安全確保が発令され、「令和8年8月千葉豪雨」と命名されるほどの甚大な災害となっています。

葛飾区からわずか20～40kmの距離で起きた出来事であり、決して“テレビの向こう側”の話ではありません。地球温暖化の影響でしょうか、1時間に80ミリ以上の猛烈な雨は過去40年間で約1.8倍に増加しているとされ、近年の豪雨は「数十年に一度」の特別な災害ではなく、私たちの生活のすぐそばで起こりうる“身近な危険”になっています。

豪雨の見込みが伝えられたとき、まず注意したいのは**土地の低い場所や水はけの悪い場所、雨水が流れとなる場所に近づかないこと**です。冠水が始まると足元の高低差が分からず、側溝やマンホールに足を取られる事故が起きやすくなります。雨水が流れている場所では、見た目以上に流れが強いこともあり、歩行でも車でも非常に危険です。

車の運転にも注意が必要です。車は浸水すると動けなくなり、ドアが水圧で開かなくなる危険もあります。「行けるかもしれない」という判断はダメ、危険を感じたら迷わず引き返すこと、迂回することが車と命を守ります。今回の“千葉豪雨”では、水没・故障し、路上に放置された車両が少なくとも2700台以上、最終的には3000台規模に達したとみられ、大きな社会問題となりました。また水没した車から脱出できず、4人が犠牲となっています。

冠水したところを車で走行すること自体に、さまざまな危険があります。

- ・ センターライン・車線が見えなくなり、積雪道路と同様、片側2車線あっても1車線のようにしか使えなくなります。
- ・ 慣れていない道路では道路の高低や冠水の深さが分かりづらく、深い場所に突っ込んで立ち往生する。特にアンダーパスでは「冠水注意」の表示もありますが、十分な注意が必要です。また、道路に陥没ができていたり、マンホールの蓋が開いていたりしても気づけません。
- ・ 水の流れにも注意が必要です。流れがあっても、雨が降っていたり、水面が波打っていたりすると、流れの強さを感じ取ることができなくなります。車の床以上の水位になると車に浮力がわか

2026年8月13日の時間最大雨量と平年値（単位：ミリ）

	1時間 最大	1時間/ 8月平年値	3時間 最大	3時間/ 8月平年値	12時間 最大	12時間/ 8月平年値	1か月間/ 8月平年値
千葉	115.0	1.0	188.5	1.6	341.5	3.0	115.7
佐倉	97.0	0.9	189.5	1.7	231.5	2.1	109.1

1時間で8月の月平年値ほどの猛烈な雨が降り、12時間では2～3倍の雨量となりました。積乱雲・線状降水帯のすさまじさ・怖さがわかります。

り、タイヤの動力が道路に伝わりにくくなり、ときには流されることもあります。

- ・ 局地的短時間大雨(ゲリラ豪雨)のときは、徐々に水位が上昇するのではなく、見る見るうちに上昇します。

また、水位が上がるにつれ、普通車では次のような危険度が増します。

- 1) タイヤが浸かるとスピードが落ち、ブレーキの効きが悪くなります。
- 2) ドア下部ほどまで浸かって来ると、マフラーが浸水したり、跳ねた水がエンジンの吸気口に入ったりして、エンジンが止まってしまう危険があります。
- 3) ドアの下部から 20 cmほど浸かってくると、水圧によりドアを開きにくくなります。身体の横にあるドアには十分な力が掛けられません。

また、エンジンも含め各機能・部分がコンピュータ制御され、電気系統に水が入ると、窓(パワーウィンドウ)の開閉も作動しなくなり、車全体の機能を失います。

- 4) さらに水位が増すと車体は浮き始め流されます(3・11 の津波で車が流されるシーンは何度も報じられました)。車体はしばらく浮き、スマホなどで救助を求めることもできるのも、このときまでのようですが、救助者は高い水位の所をすぐに駆けつけられる状況ではなくなっている可能性が高いです。車体の重たい方、エンジンのある方が先に沈みます。

- 5) 車からの脱出は、ドアの窓ガラスを割るしかないのですが、JAFは実施実験などを基に、右の図のようにまとめています。

報道によると、窓ガラスを割る方法として、背もたれにあるヘッドレストを引き抜き、金属棒を窓の下の際間にねじ込み、“てこ”の原理を用いて棒の先端をガラスに強く押し当て、窓ガラスを割る方法もあるようです。

もし、窓を割って脱出する場合は、“窓の外側に背を向け”、窓上部にある把手を両手でしっかり握り、座席を蹴って脱出するのが良い。この反対の姿勢で脱出すると、頭を水に突っ込むことになる。窓から身体出すときに、ドアに残っている窓ガラスで怪我をしないよう注意が必要です。

“たとえ車から脱出できても”、水位の高い中を安全に移動できるとは限りません。流れのある場所では、歩行でも転倒・流される危険が高く、避難行動そのものが命に関わります。

夏季の猛烈な雨は数時間でピークを越すことが多いです。公共施設や職場などで待機するなどし、冠水リスクの少ない時間帯やルートを選ぶことです。

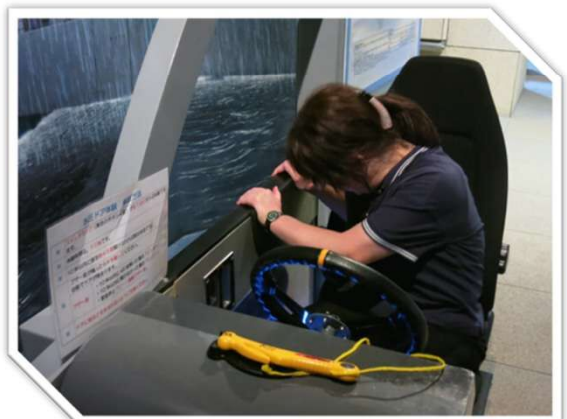
報道では、冠水した道路を車が水しぶきを上げながら進む映像が流れます。“絵になるシーン”のようですが、“車は水に強い”と誤解することのないよう、強くお願いしたいと思います。

JAF 車が水没！ 何を使えば窓が割れる？

- ・ 狭い車内では力が入りにくいのに加えて、水没時は水の抵抗もあり、脱出用ハンマー以外のもものでは割れなかった。
- ・ 緊急時に備えて脱出用ハンマーを手の届くところに常備しておきましょう。
- ・ フロントガラスはフィルムが入っているので、脱出用ハンマーでも割ることができません。



出典：JAF ユーザーテスト クルマが水没!! 何を使えば窓が割れる？



東京消防庁本所防災館では、自動車が浸水して水圧がかかっているドアの開放体験ができます。手前の黄色い物は窓ガラスを割るときに用いる脱出用ハンマー。